

IRに関する全国調査

2023年5月

JSPS科学研究費助成事業

「IRによる情報提供と大学執行部のデータリテラシーのあり方に関する調査研究」

(課題番号：20H00715)

アンケート実施概要

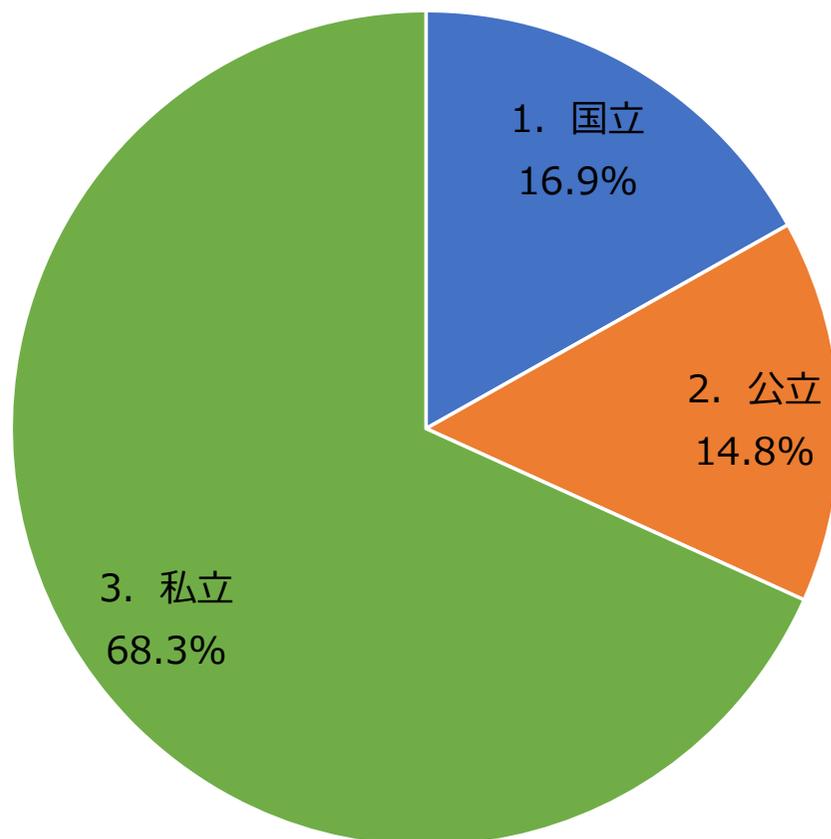
実施目的	IRの業務にかかわっているご担当者を対象にIR活動の実態や課題把握、スキルや能力育成に関するご意見を把握する
調査期間	2023年2月～3月
実施方法	質問紙郵送、Web回答
回答率	323件（802件郵送：1件宛先不明） データクレンジング前：40.2%（データクレンジング後36.2%）
データクレンジング	設問の半数以上が未入力の回答（32件）及び同一回答（1件）の削除、大学が特定できる可能性のある記述（その他や自由記述）は集約等を行って集計するなど、必要なデータクレンジングを行っている。 ※大学院大学への送付を行ったが、設問ミスによりQ2～Q4については大学院大学向けの回答にはなっていないことが判明



【1】大学の基本情報について

Q1. 貴学の設置形態について、該当するものを1つ選んでください。

[回答: 1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. その他 (具体的に)]

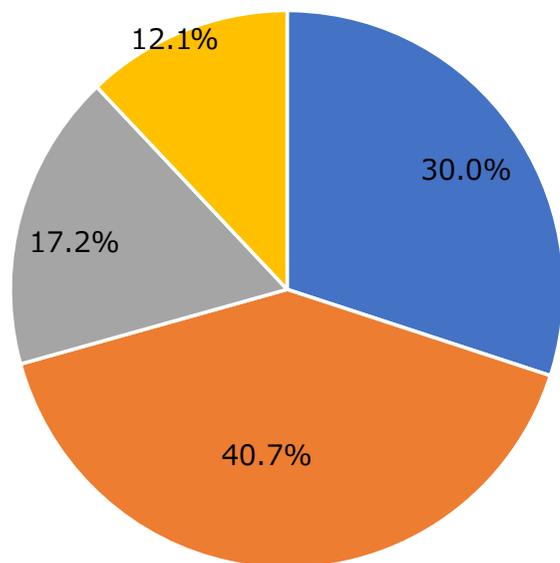


国立	49
公立	43
私立	198

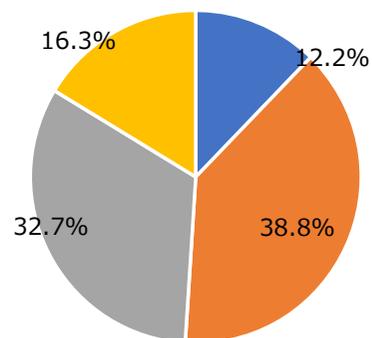
Q2. 貴学の学部学生数（2022年5月現在総現員数）について、該当するものを1つ選んでください。

[回答：1. 999名以下 2. 1,000名～4,999名 3. 5,000名～8,999名 4. 9,000名以上]

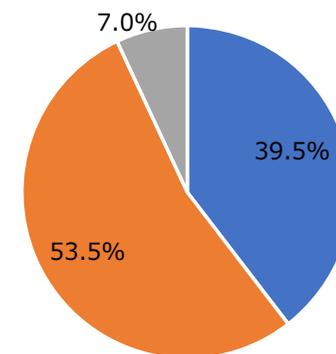
総計



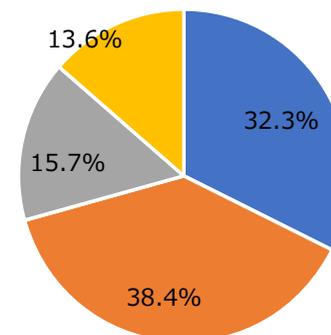
国立



公立



私立

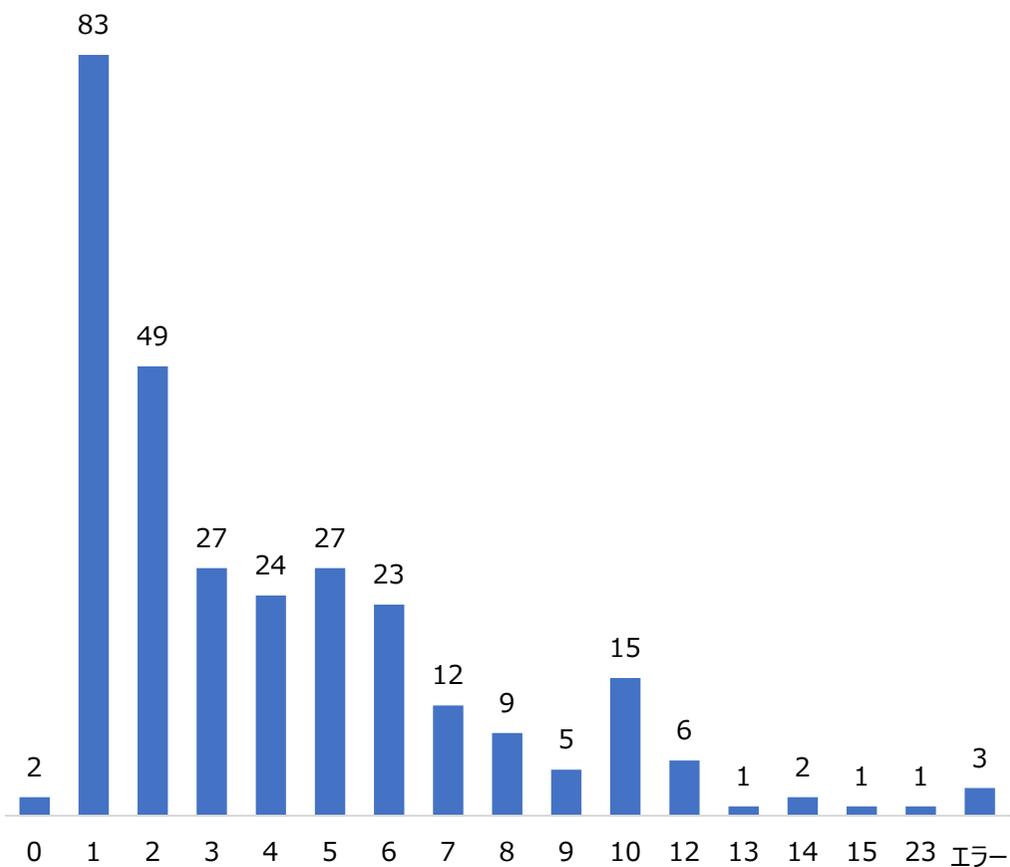


- 1. 999名以下
- 2. 1,000名～4,999名
- 3. 5,000名～8,999名
- 4. 9,000名以上

Q3. 貴学の学部数をお答えください。

[回答：数字入力]

総計



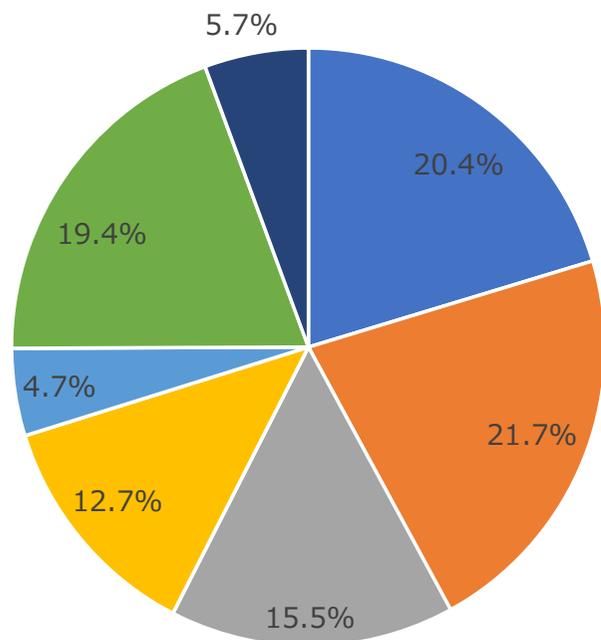
学部数	国立	公立	私立
0	1	1	
1	14	16	53
2	2	8	39
3	3	6	18
4	6	2	16
5	4	5	18
6	6	2	15
7	4	2	6
8			9
9	1		4
10	3		12
12	4	1	1
13			1
14			2
15			1
23			1
エラー	1		2

※ 0は大学院大学院、エラーは数値以外のデータ等の入力ミス回答

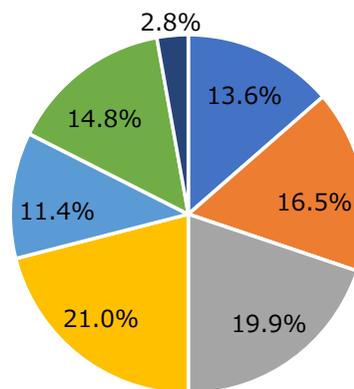
Q4. 貴学の学部の分野構成について、該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：1. 人文科学分野 2. 社会科学分野 3. 教育学・保育学分野 4. 理学・工学分野 5. 農学・水産学・獣医学分野 6. 医学・薬学・保健学分野 7. その他（具体的に）]

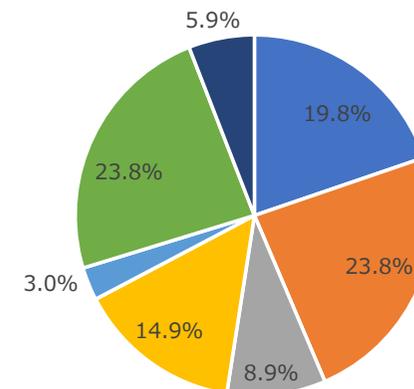
総計



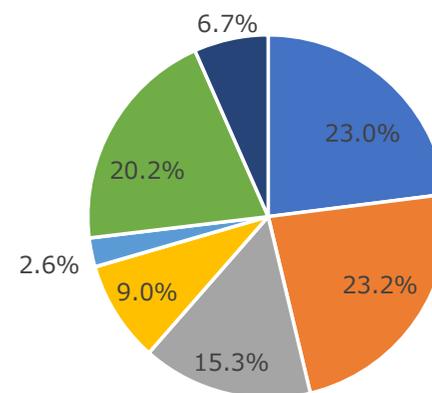
国立



公立



私立



- 1. 人文科学分野
- 2. 社会科学分野
- 3. 教育学・保育学分野
- 4. 理学・工学分野
- 5. 農学・水産学・獣医学分野
- 6. 医学・薬学・保健学分野
- 7. その他

【その他回答例】
 スポーツ分野、建築分野、リハビリテーション分野、美術・芸術分野、家政学分野、音楽分野等

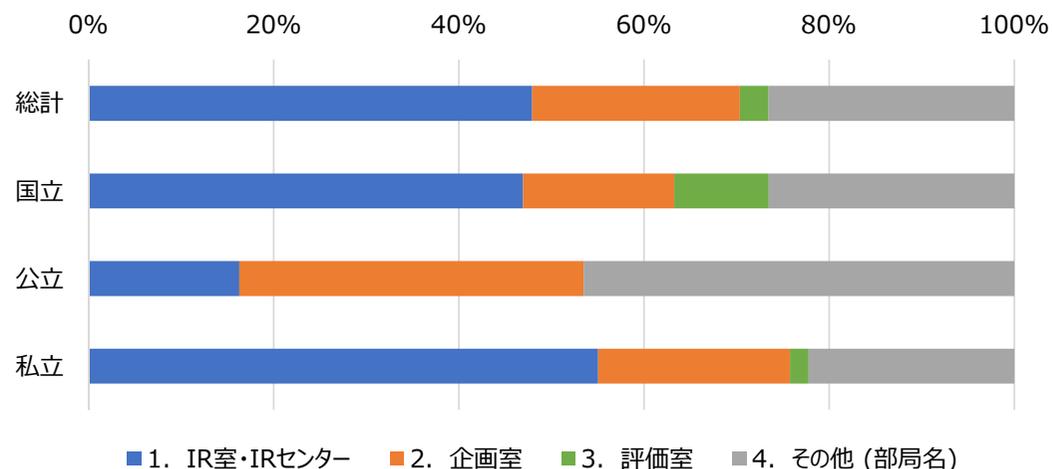


【2】回答者ご自身について

Q5. 所属部局について、該当するもの（おおよそ該当するもので構いません）を1つ選んでください。

[回答：1. IR室・IRセンター 2. 企画室 3. 評価室 4. その他（部局名）]

所属部局	総計	国立	公立	私立
1. IR室・IRセンター	139	23	7	109
2. 企画室	65	8	16	41
3. 評価室	9	5	-	4
4. その他（部局名）	77	13	20	44



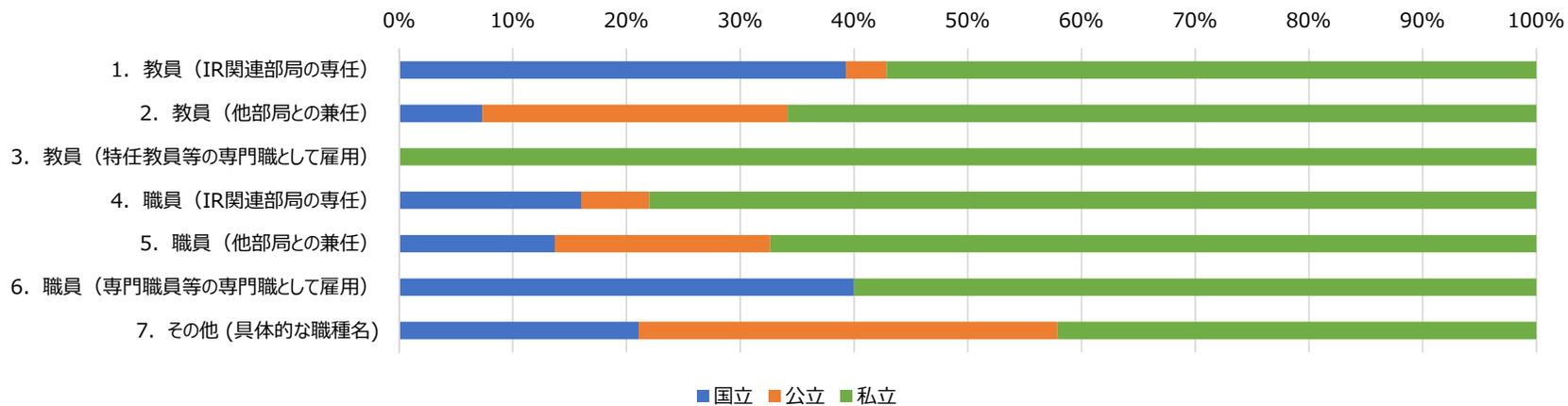
4. その他 (部局名)	部局名（関連で整理）	国立	公立	私立
	センター関連	3		4
	その他（委員会含む）	2	3	13
	学生支援関連	1	2	2
	学部関連		4	
	学務・教務関連	1	5	4
	戦略・企画関連	6		13
	総務関連		6	5
	大学評価・内部質保証関連			3

Q6. 回答者ご自身の職種について、該当するものを1つ選んでください。

[回答：1. 教員（IR関連部局の専任） 2. 教員（他部局との兼任） 3. 教員（特任教員等の専門職として雇用） 4. 職員（IR関連部局の専任）
5. 職員（他部局との兼任） 6. 職員（専門職員等の専門職として雇用） 7. その他（具体的に職種名）]

	総計	国立	公立	私立
1. 教員（IR関連部局の専任）	28	11	1	16
2. 教員（他部局との兼任）	41	3	11	27
3. 教員（特任教員等の専門職として雇用）	2	-	-	2
4. 職員（IR関連部局の専任）	100	16	6	78
5. 職員（他部局との兼任）	95	13	18	64
6. 職員（専門職員等の専門職として雇用）	5	2		3
7. その他（具体的な職種名）	19	4	7	8

【その他回答例】
教員、職員、執行部、嘱託・非常勤職員、設立団体から派遣

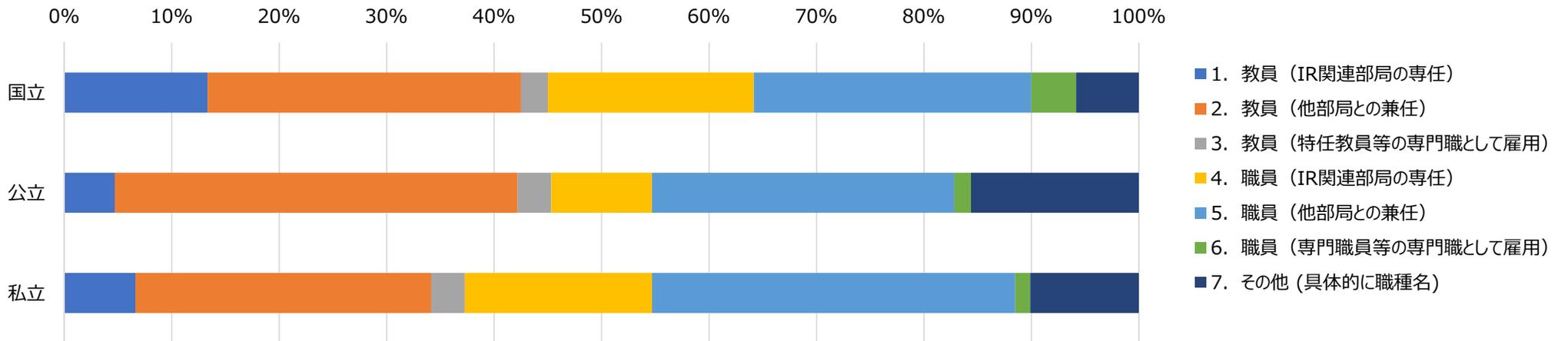


Q7. IR関連業務を担当する者として、あなたの他にどのような教職員がいますか。該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：1. 教員（IR関連部局の専任） 2. 教員（他部局との兼任） 3. 教員（特任教員等の専門職として雇用） 4. 職員（IR関連部局の専任）
5. 職員（他部局との兼任） 6. 職員（専門職員等の専門職として雇用） 7. その他（具体的に職種名）]

	国立	公立	私立
1. 教員（IR関連部局の専任）	16	3	19
2. 教員（他部局との兼任）	35	24	79
3. 教員（特任教員等の専門職として雇用）	3	2	9
4. 職員（IR関連部局の専任）	23	6	50
5. 職員（他部局との兼任）	31	18	97
6. 職員（専門職員等の専門職として雇用）	5	1	4
7. その他（具体的に職種名）	7	10	29

【その他回答例】
委員会、回答者のみ・いない、
学長、教職員、嘱託・非常勤職員、
発令無しの場合、未定



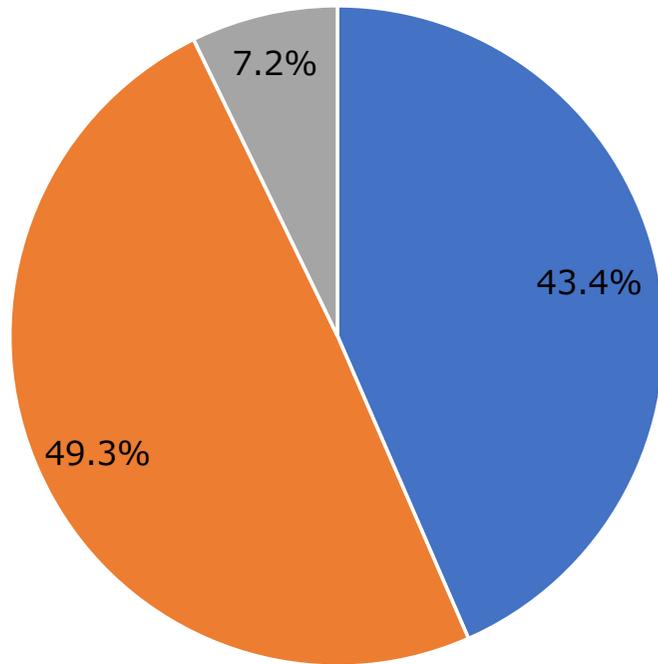
【3】貴学のIR活動について

※回答者ご自身のご意見として回答してください。

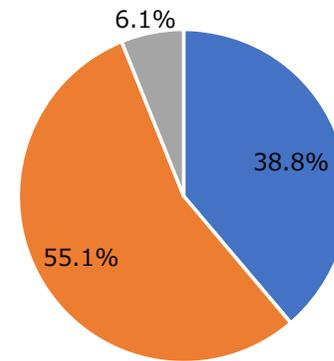
Q8.「教学マネジメント指針」（2020年1月）が発表されて、体制や依頼の増加などの変化があったと思いますか。該当するものを1つ選んでください。

[回答：1. あったと感じる 2. なかったと感じる（Q10へ） 3. その他（具体的に教えてください）]

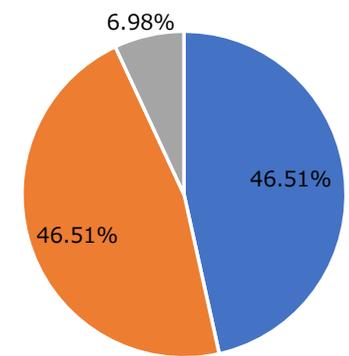
総計



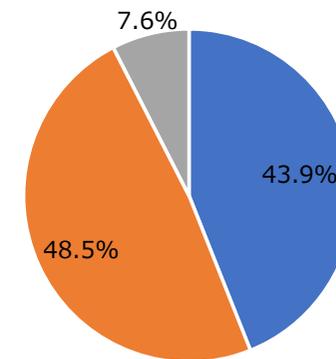
国立



公立



私立



■ 1. あったと感じる ■ 2. なかったと感じる (Q10へ) ■ 3. その他 (具体的に教えてください)

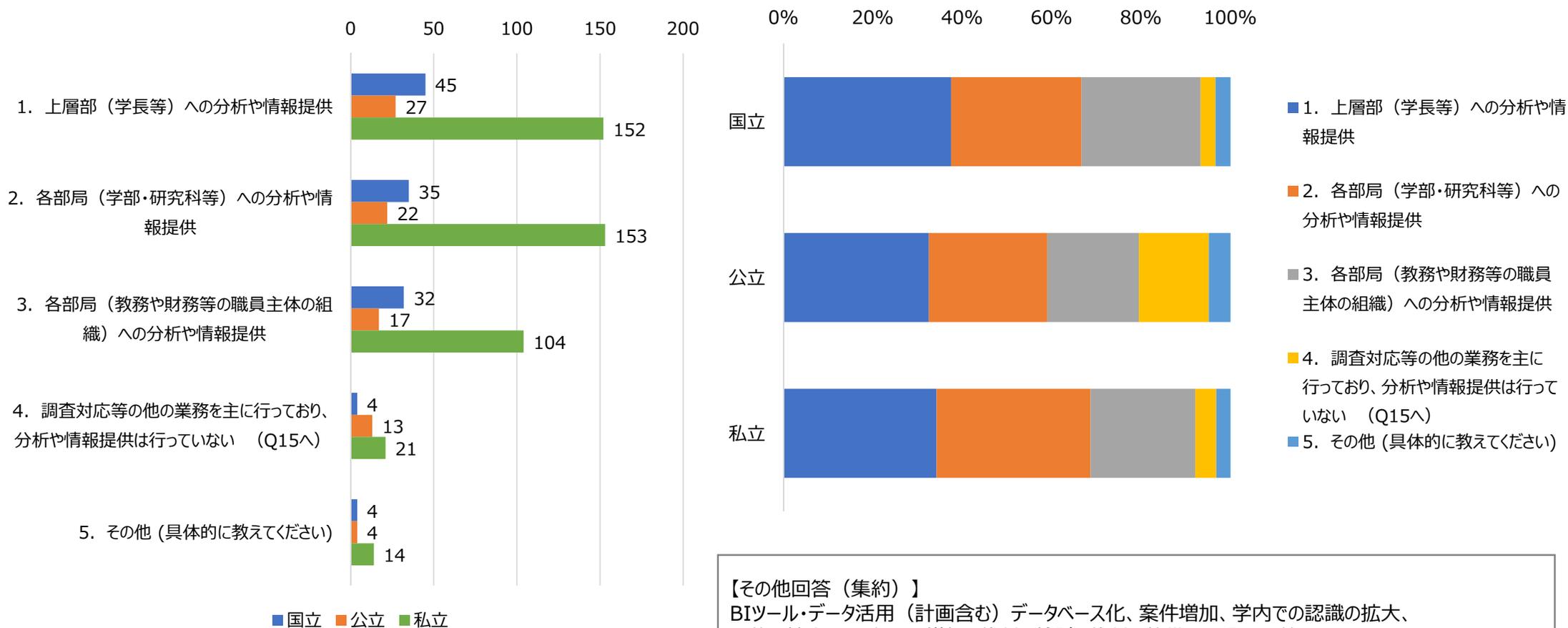
【その他回答（集約）】

依頼の増加や取り組みの増加（指針との関係不明）、外部評価による変化、増加を予想、体制整備、体制未整備、発表前から整備済み、不明（設置や着任したばかり等）

Q9. Q8で「1. あったと感じる」又は「3. その他」と回答した場合、どのような変化があったか、該当するものを全て選んでください。

(複数回答可)

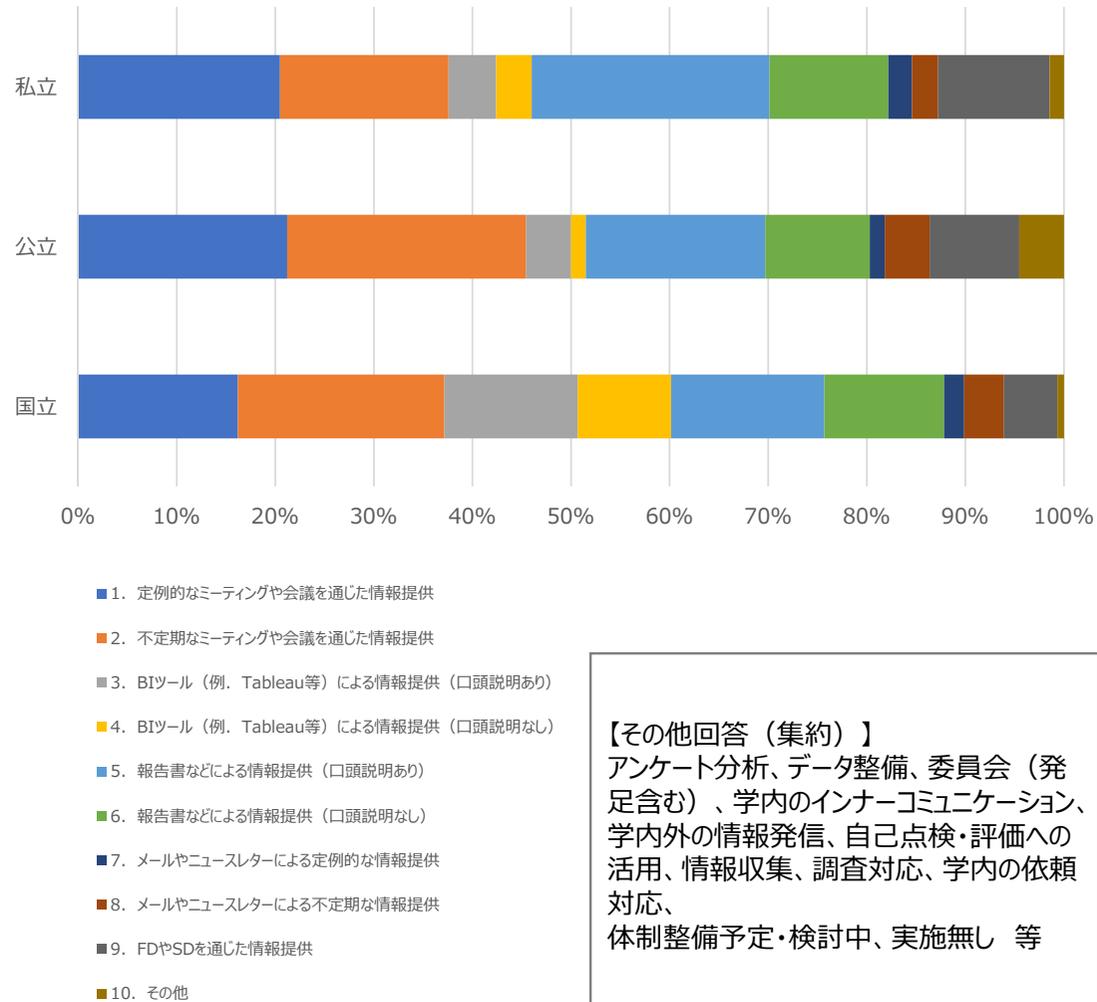
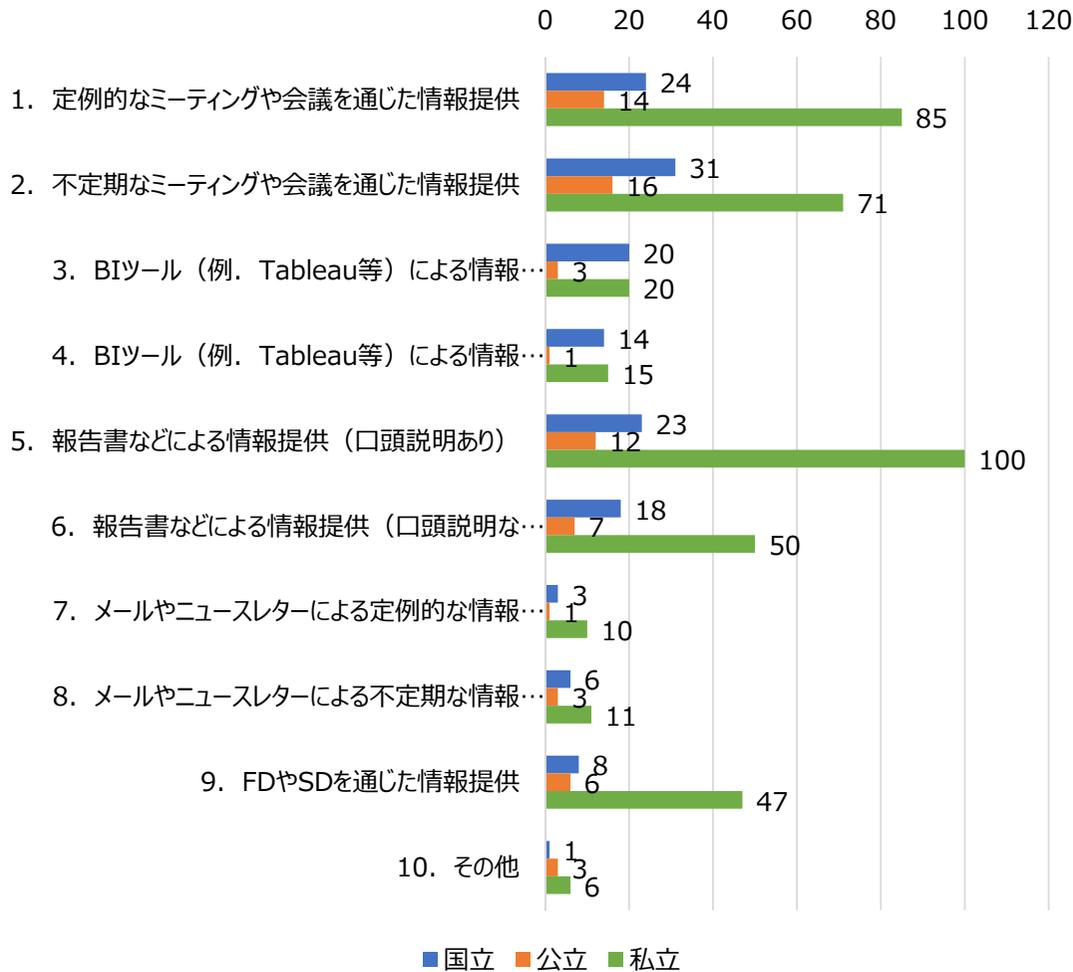
[回答：1. 上層部（学長等）からの依頼が来るようになった（あるいは増加した） 2. 各部署（学部・研究科等）からの依頼が来るようになった（あるいは増加した）
3. 各部署（教務や財務等の職員主体の組織）からの依頼が来るようになった（あるいは増加した） 4. データを入手しやすくなった 5. データベースが整備された
6. BIツール（例. Tableau等）などが導入された 7. IRに関連する研修が実施されるようになった 8. IR（分析データ等）を活用したFDやSDなどが実施されるようになった 9. 所属部署の人員が増加した 10. 予算が増加した 11. 大学のDX化が進んだ 12. その他（具体的に教えてください）]



【その他回答（集約）】
BIツール・データ活用（計画含む）データベース化、案件増加、学内での認識の拡大、研修の拡大、取り組みの増加、体制の検討、体制の整備、不明・なし等

Q10. 貴学ではどのようなIR活動が行われていますか。該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

〔回答：1. 上層部（学長等）への分析や情報提供 2. 各部署（学部・研究科等）への分析や情報提供 3. 各部署（教務や財務等の職員主体の組織）への分析や情報提供 4. 調査対応等の他の業務を主に行っており、分析や情報提供は行っていない（Q15へ） 5. その他（具体的に教えてください）〕

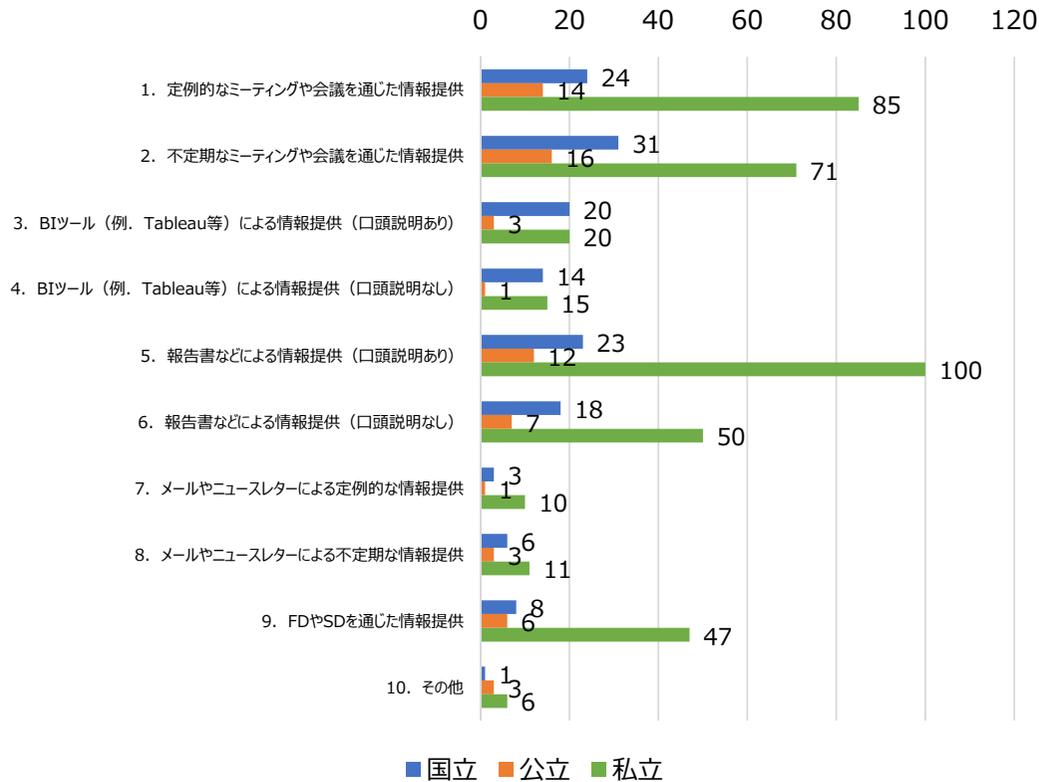


【その他回答（集約）】
 アンケート分析、データ整備、委員会（発足含む）、学内のインナーコミュニケーション、学内外の情報発信、自己点検・評価への活用、情報収集、調査対応、学内の依頼対応、体制整備予定・検討中、実施無し 等

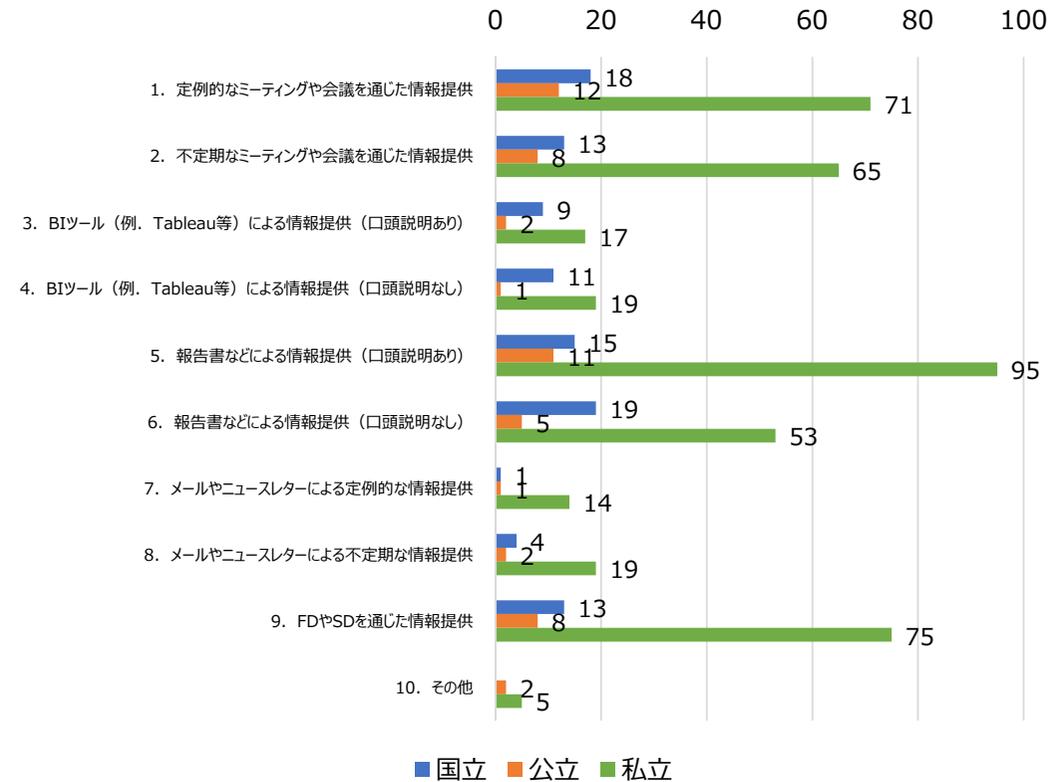
Q11. 貴学では、どのような方法でIR関連の情報提供が行われていますか。Q10で選択した分析や情報提供先ごとに、該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：Q10の「1. 上層部（学長等）」「2. 各部局（学部・研究科等）」「3. 各部局（教務や財務等の職員主体の組織）」「5. その他」のそれぞれに対して、
 1. 定例的なミーティングや会議を通じた情報提供 2. 不定期なミーティングや会議を通じた情報提供 3. BIツール（例、Tableau等）による情報提供（口頭説明あり） 4. BIツール（例、Tableau等）による情報提供（口頭説明なし） 5. 報告書などによる情報提供（口頭説明あり） 6. 報告書などによる情報提供（口頭説明なし） 7. メールやニュースレターによる定例的な情報提供 8. メールやニュースレターによる不定期な情報提供 9. FDやSDを通じた情報提供 10. その他（具体的な情報提供方法等）]

1. 上層部（学長等）



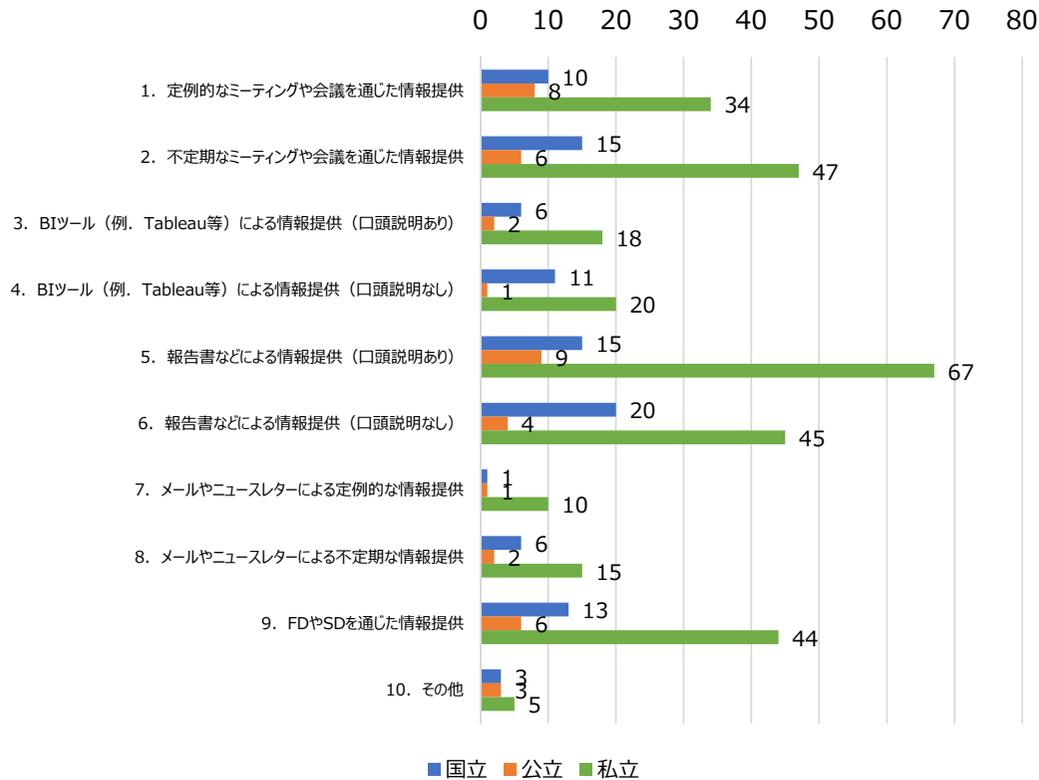
2. 各部局（学部・研究科等）



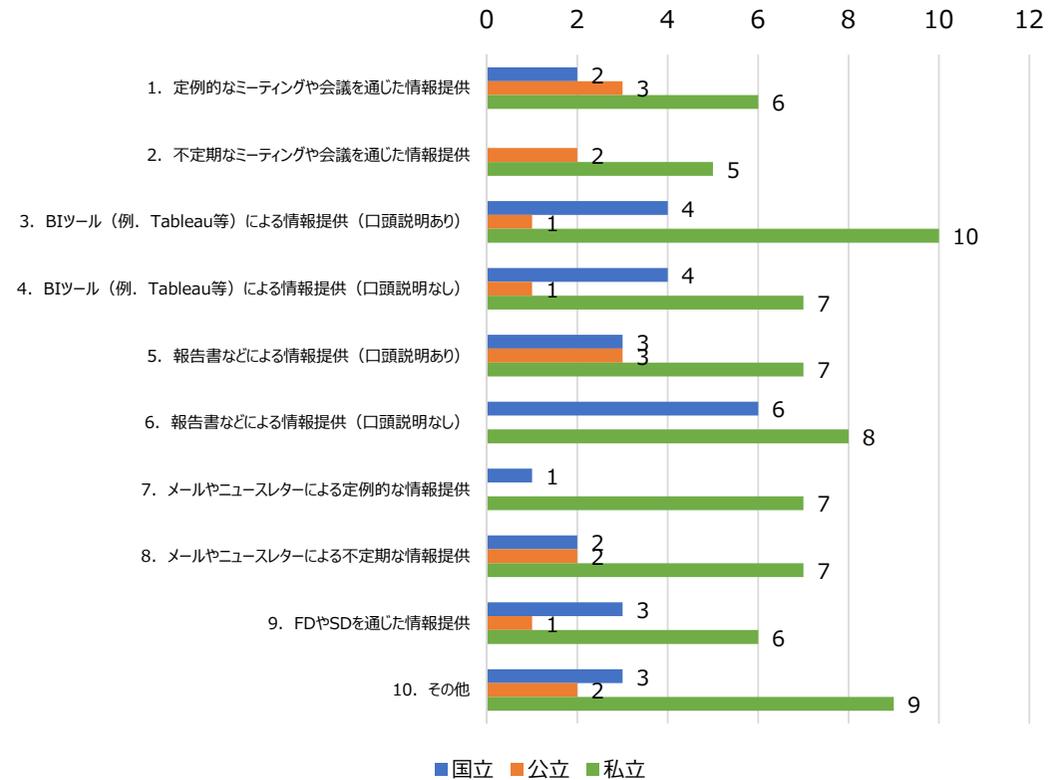
Q11. 貴学では、どのような方法でIR関連の情報提供が行われていますか。Q10で選択した分析や情報提供先ごとに、該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：Q10の「1. 上層部（学長等）」「2. 各部局（学部・研究科等）」「3. 各部局（教務や財務等の職員主体の組織）」「5. その他」のそれぞれに対して、
 1. 定例的なミーティングや会議を通じた情報提供 2. 不定期なミーティングや会議を通じた情報提供 3. BIツール（例、Tableau等）による情報提供（口頭説明あり） 4. BIツール（例、Tableau等）による情報提供（口頭説明なし） 5. 報告書などによる情報提供（口頭説明あり） 6. 報告書などによる情報提供（口頭説明なし） 7. メールやニュースレターによる定例的な情報提供 8. メールやニュースレターによる不定期な情報提供 9. FDやSDを通じた情報提供 10. その他（具体的な情報提供方法等）]

3. 各部局（教務や財務等の職員主体の組織）



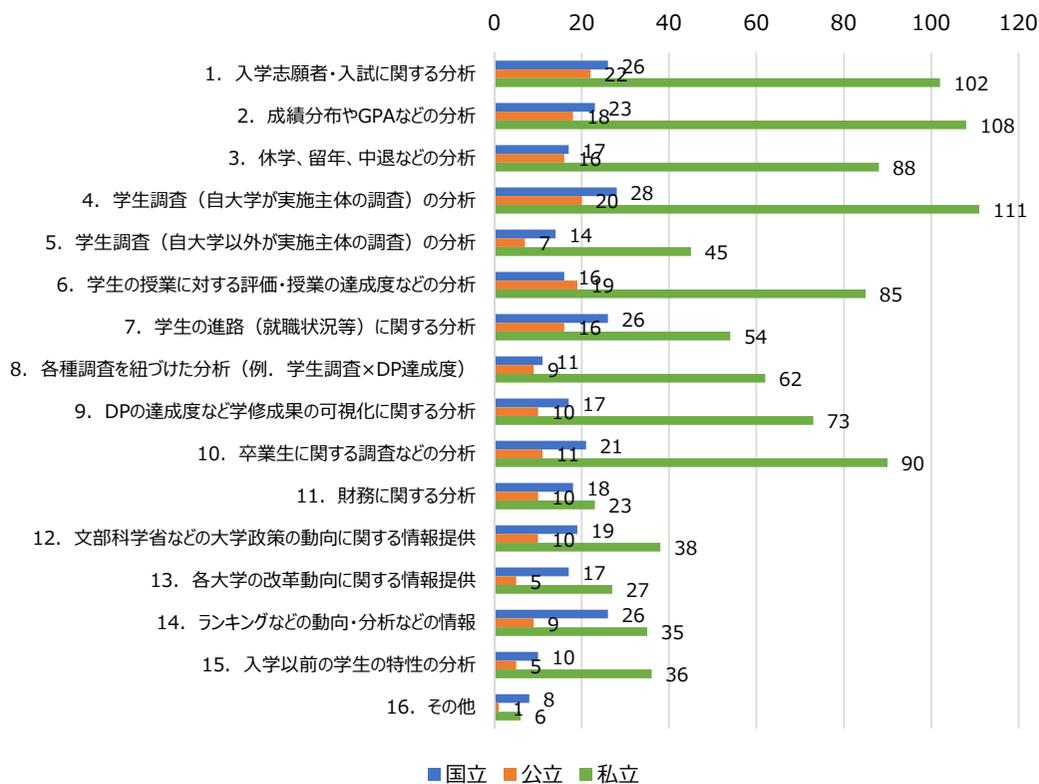
5. その他



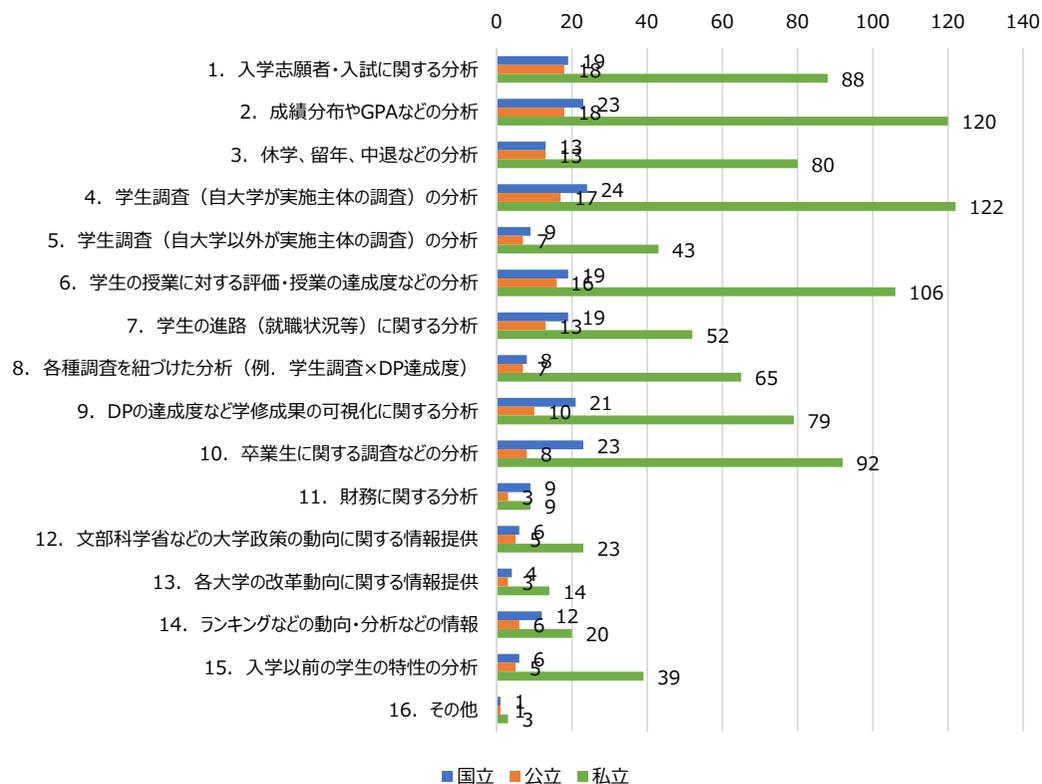
Q12. 貴学ではどのようなIR関連の情報内容を提供していますか。Q10で選択した分析や情報提供先ごとに、該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：Q10の「1. 上層部（学長等）」「2. 各部署（学部・研究科等）」「3. 各部署（教務や財務等の職員主体の組織）」「5. その他」のそれぞれに対して、
 1. 入学志願者・入試に関する分析 2. 成績分布やGPAなどの分析 3. 休学、留年、中退などの分析 4. 学生調査（自大学が実施主体の調査）の分析
 5. 学生調査（自大学以外が実施主体の調査）の分析 6. 学生の授業に対する評価・授業の達成度などの分析 7. 学生の進路（就職状況等）に関する分析
 8. 各種調査を紐づけた分析（例、学生調査×DP達成度） 9. DPの達成度など学修成果の可視化に関する分析 10. 卒業生に関する調査などの分析
 11. 財務に関する分析 12. 文部科学省などの大学政策の動向に関する情報提供 13. 各大学の改革動向に関する情報提供 14. ランキングなどの動向・分析などの情報 15. 入学以前の学生の特性の分析 16. その他（具体的な情報提供内容等）]

1. 上層部（学長等）



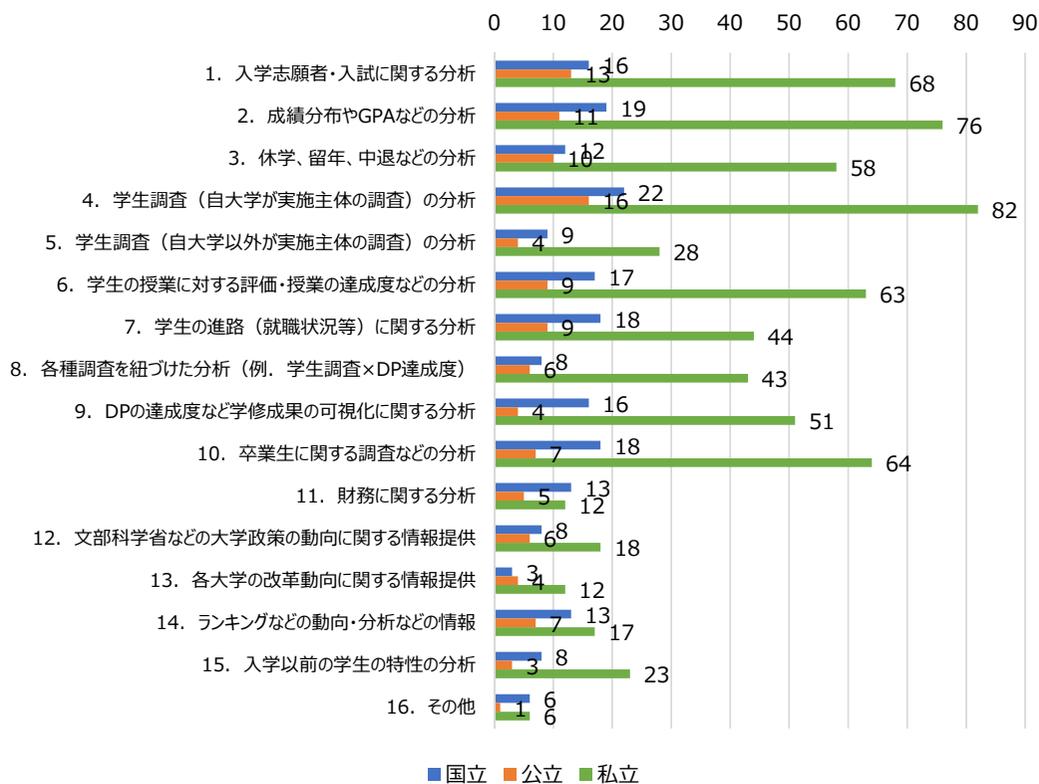
2. 各部署（学部・研究科等）



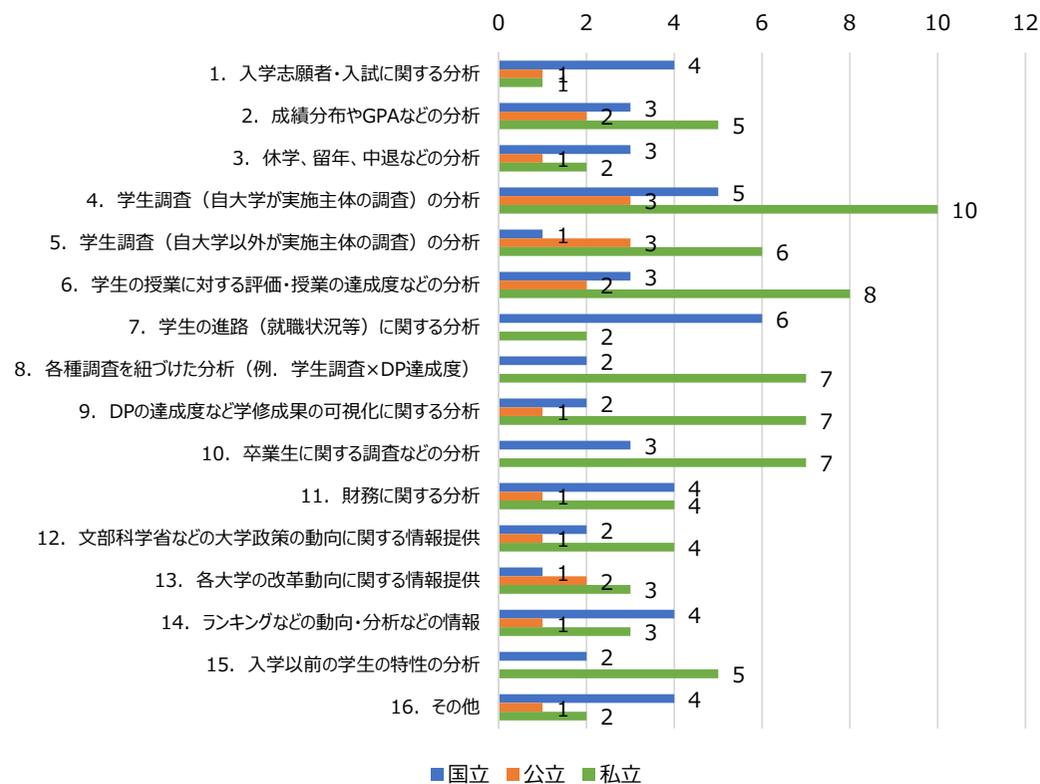
Q12. 貴学ではどのようなIR関連の情報内容を提供していますか。Q10で選択した分析や情報提供先ごとに、該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：Q10の「1. 上層部（学長等）」「2. 各部局（学部・研究科等）」「3. 各部局（教務や財務等の職員主体の組織）」「5. その他」のそれぞれに対して、
 1. 入学志願者・入試に関する分析 2. 成績分布やGPAなどの分析 3. 休学、留年、中退などの分析 4. 学生調査（自大学が実施主体の調査）の分析
 5. 学生調査（自大学以外が実施主体の調査）の分析 6. 学生の授業に対する評価・授業の達成度などの分析 7. 学生の進路（就職状況等）に関する分析
 8. 各種調査を紐づけた分析（例、学生調査×DP達成度） 9. DPの達成度など学修成果の可視化に関する分析 10. 卒業生に関する調査などの分析
 11. 財務に関する分析 12. 文部科学省などの大学政策の動向に関する情報提供 13. 各大学の改革動向に関する情報提供 14. ランキングなどの動向・分析などの情報
 15. 入学以前の学生の特性の分析 16. その他（具体的な情報提供内容等）]

3. 各部局（教務や財務等の職員主体の組織）



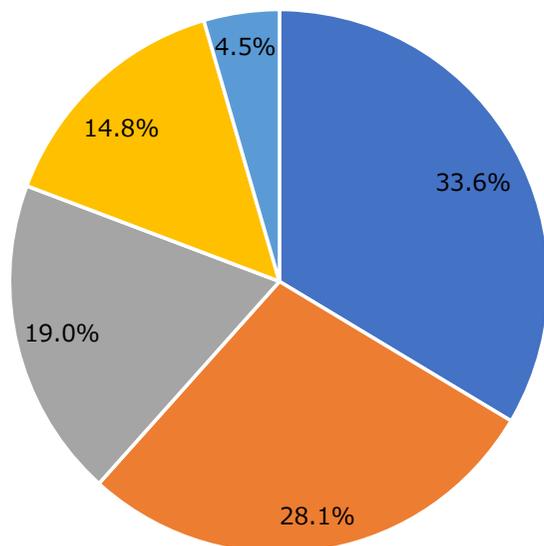
5. その他



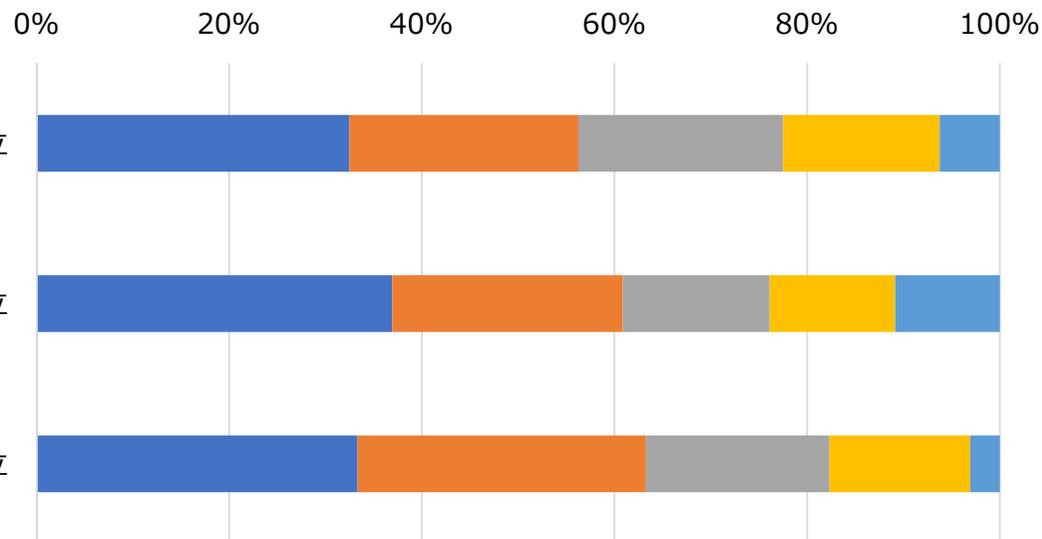
Q13. 提供した情報は、大学の意思決定や改善等に活用されていると感じますか。該当するものを全て選んでください。（複数回答可）

[回答：1. 上層部（学長等）に活用されていると感じる 2. 各部署（学部・研究科等）に活用されていると感じる 3. 各部署（教務や財務等の職員主体の組織）に活用されていると感じる 4. 活用されているとは感じない 5. その他（具体的に）]

総計



- 1. 上層部（学長等）に活用されていると感じる
- 2. 各部署（学部・研究科等）に活用されていると感じる
- 3. 各部署（教務や財務等の職員主体の組織）に活用されていると感じる
- 4. 活用されているとは感じない
- 5. その他（具体的に）



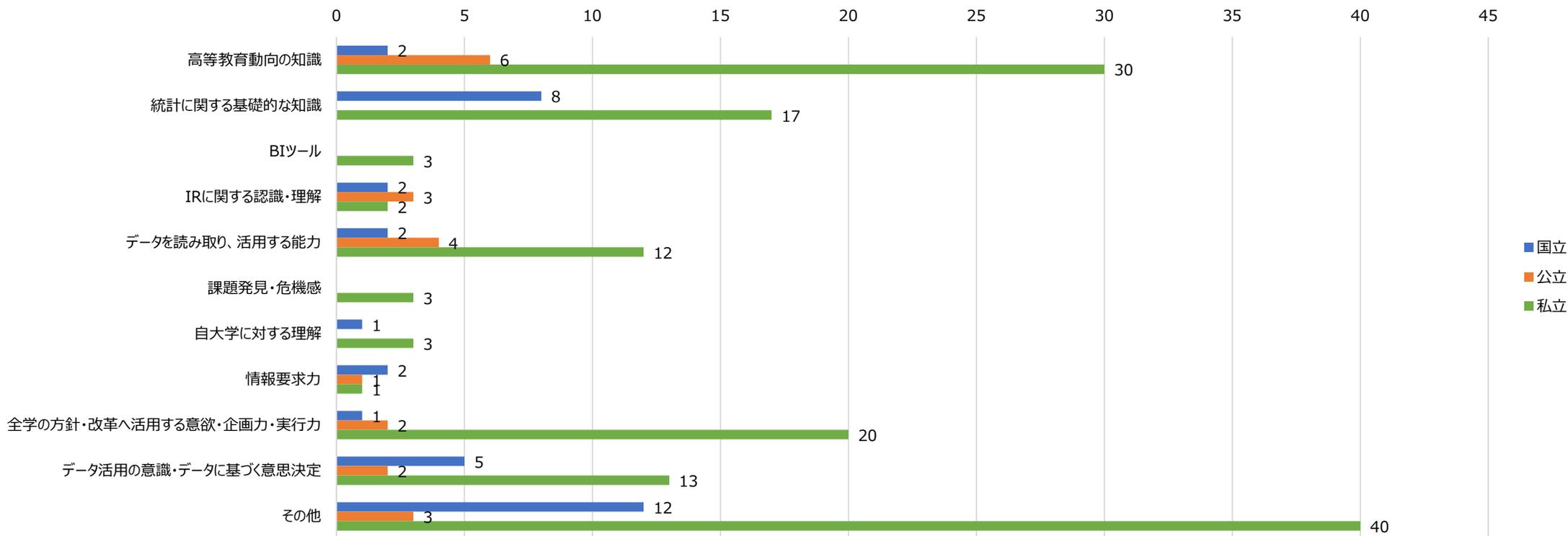
【その他回答（集約）】

一部活用できている、活用していく予定、具体的な計画・改善への落とし込み未達
効果測定まで至っていない、変化が見えない、組織的体系的な活用に至っていない
執行部には活用される可能性はあるが他は不明、十分でない、情報提供にとどまる、
浸透させている段階、体制整備中、不明 等

Q14. 情報を提供した相手方にどのような能力があれば、さらに意思決定や改善等に活用されると思いますか。

[例. 提供相手に統計（平均やバラツキ、検定等）に関する基礎的な知識が必要、上層部（学長等）に大学の改革動向に関する知識が必要 等]

[回答：自由記述]



【その他回答（集約）】

【執行部に対する意見】 学内のスケジュールや調整力、PDCAサイクルを実行する能力、マネジメントスキル、執行部の数値目標、学生に対する思い、IR部署との意思の疎通、現場経験、

【IR部署に対する能力】 IR担当によるわかりやすい報告や情報提供の工夫、IR担当の提案力、IR担当の学内での権力、学長への情報伝達（媒体含む）

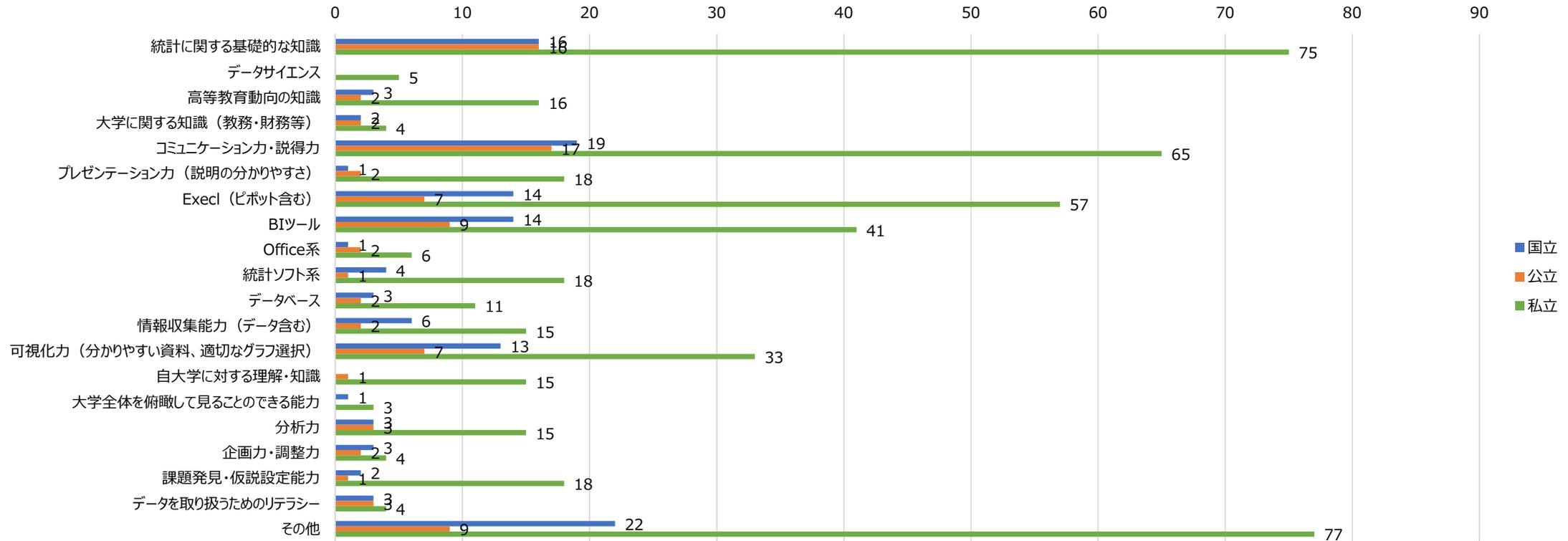
【そのほか（組織文化など）】 データを改革等に活用する文化、フィードバックのシステム、IR人材を育成すること

等

Q15. IR担当者に必要な能力やスキルは何だと思いますか。

[例. 統計学（検定ができる）、コミュニケーション力（他学部教員と話す）、Excelのピボットテーブル、適切なグラフが選択できる、BIツールが使える等]

[回答：自由記述]



■ 国立
■ 公立
■ 私立

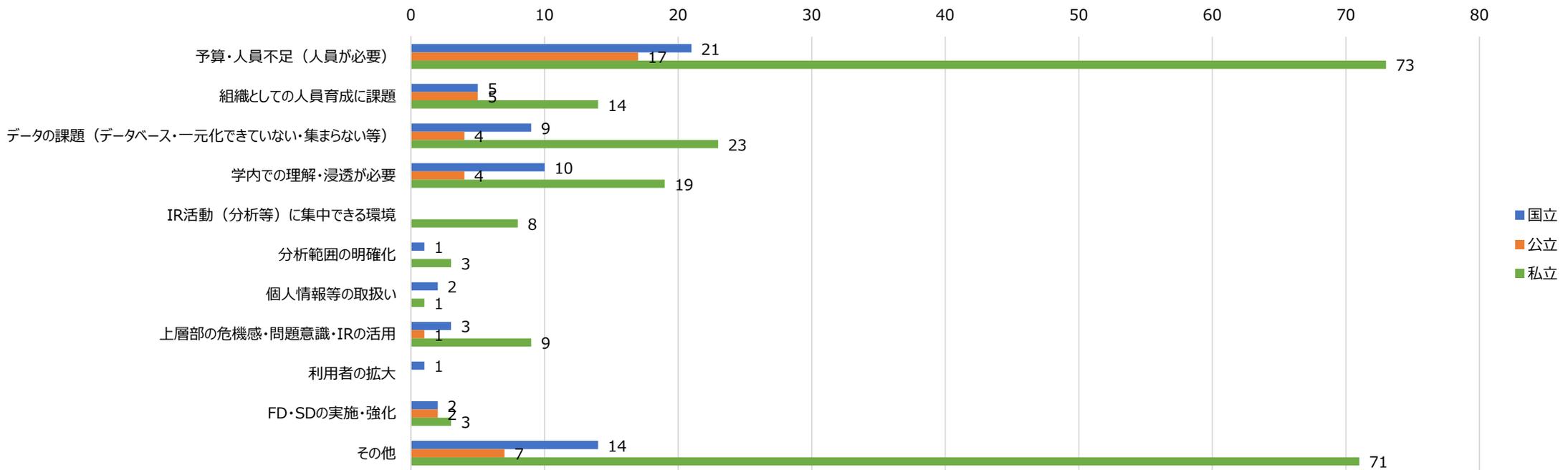
【その他回答（集約）】

データベース開発・サーバ管理、プログラミング、情報発信、文書作成能力、課題解決力、データから実態を読み取る力、テキストマイニング、IRに関する理解・興味。コンサルティング力、リーダーシップ、教育に対する自らの考え、教務知識業務スピード、情報を活用した改善提案ができる能力、情報を伝える相手（組織）との信頼関係、アンケート等の設計スキル、分析センス、数字やグラフを読む力、多面的な視点で物事を考えられる能力、IR業務に対する熱意や使命感や責任感、積極性・行動力、先を読む力、発信力、創造性、学び続ける力等

Q16. IR活動全体を通じて、自大学で行いたいこと、課題に感じること、必要だと思う人材や研修、IRの取組みを強化するために必要と思うことなどをご自由にお書きください。

【例. 学長にもっと情報提供をしたい、人員が足りない、データが集まらない、統計学や分析を行うことができる職員が必要である 等】

【回答：自由記述】



【その他回答（集約）】

【組織】 大学の方針の明確化（具体的方針や具体的なリクエストがあると良い）、日常的なコミュニケーションの場づくり、執行部・教職員に「改善」「向上」という雰囲気・思いが必要、体制の整備、情報技術を活用した自動化、教育改善の可視化、教職員の連携、教育改善・意思決定への影響の実感がない、教職員の連携のための対話、学内のICTスキル全体の底上げ、意思決定プロセスや意思決定の考え方の見直し、ルール作り、KGI・KPIの設定と具体的な施策の実行まで総合的な取り組み、執行部・教職員の大学改革への意識不足、分析結果を学内に周知するルート作り 等

【IR担当】 権限の明確でない、IR担当のスキル向上（データ・BIツールを扱うスキル）、エビデンス・授業改善・関連する文科省等に動向の情報提供、実績作り、協調性、職業倫理観、自部署に留まらない責任感、問題・課題意識を持つ人物、タブ局や教員との信頼関係の構築 等

【その他】 他大学との比較分析が難しい（大学ポートレートを使い訳してほしい）、執行部からの指示（〇〇について調べてほしい、〇〇について分析してほしい等）、執行部や各部局に情報活用できる風土の醸成が必要、担当者の勉強時間の不足、知識や経験が伝播しにくい、業務の継続性が課題、新しいことに挑戦しにくい状況の打破、業務の属人化を防ぐ必要性、他大学との意見交換の機会、分散型IRが必要 等